

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和8年9月9日（水）

2 確認箇所

- ・5・6号機原子炉建屋（図1）
- ・減容処理設備（図1）

3 確認項目

- （1）5・6号機における使用済燃料及び新燃料の保管状況
- （2）減容処理設備の稼働状況

4 確認結果の概要

（1）5・6号機における使用済燃料及び新燃料の保管状況

東京電力は、各原子炉建屋の使用済燃料プールに貯蔵されている燃料について、より安定した冷却・貯蔵が可能な共用プールへの搬出を計画しており、中長期ロードマップに基づき、令和13年以内に1～6号機の使用済燃料プールからの燃料取り出しを完了させることを目標としている。

5号機の燃料取り出しは、令和7年7月23日に開始されているが、現在1,388体の燃料（使用済燃料：1,220体、新燃料^{※1}：168体）が使用済燃料プールに保管されている。

6号機の使用済燃料は令和7年4月16日に全1,456体の取り出しが完了している。一方、新燃料は、使用済燃料プールに180体、新燃料貯蔵庫に218体、計398体が保管されている。

今回は、5・6号機において燃料の保管状況を確認した。（前回確認 5号機：令和7年11月17日、6号機：令和8年7月3日）

【5号機の使用済燃料及び新燃料の保管状況】

- ・使用済燃料プールの水位は、オーバーフロー水位^{※2}付近にあり、水面に異物等は確認されなかった。また、プール周囲は整理・整頓されており、確認した範囲において適正に管理されていた。（写真1）
- ・5号機の新燃料貯蔵庫に燃料は保管されておらず、新燃料貯蔵庫の蓋は閉じられていた。（写真2）

【6号機の新燃料保管状況】

- ・使用済燃料プールの水位は、オーバーフロー水位付近にあり、水面に異物等は確認されなかった。また、プール周囲は整理・整頓されており、確認した範囲において管理状況に問題はなかった。（写真3）
- ・新燃料貯蔵庫は、蓋が閉じられており、蓋上に物品等の仮置きもなく、確認した範囲において適正に管理されていた。（写真4）

※1 未使用の燃料。使用済燃料に比べて放射線量が極めて低く、人が接近して取り扱うことが可能。熱が発生しないことから、プール等での冷却も不要。

※2 使用済燃料プールにおいて、冷却系が適切に運転している状態を示す基準水位。この水位を超えてオーバーフローした水は、スキマサージタンクに流入し、熱交換器やろ過器を通過したのち、再び使用済燃料プールへ戻される。

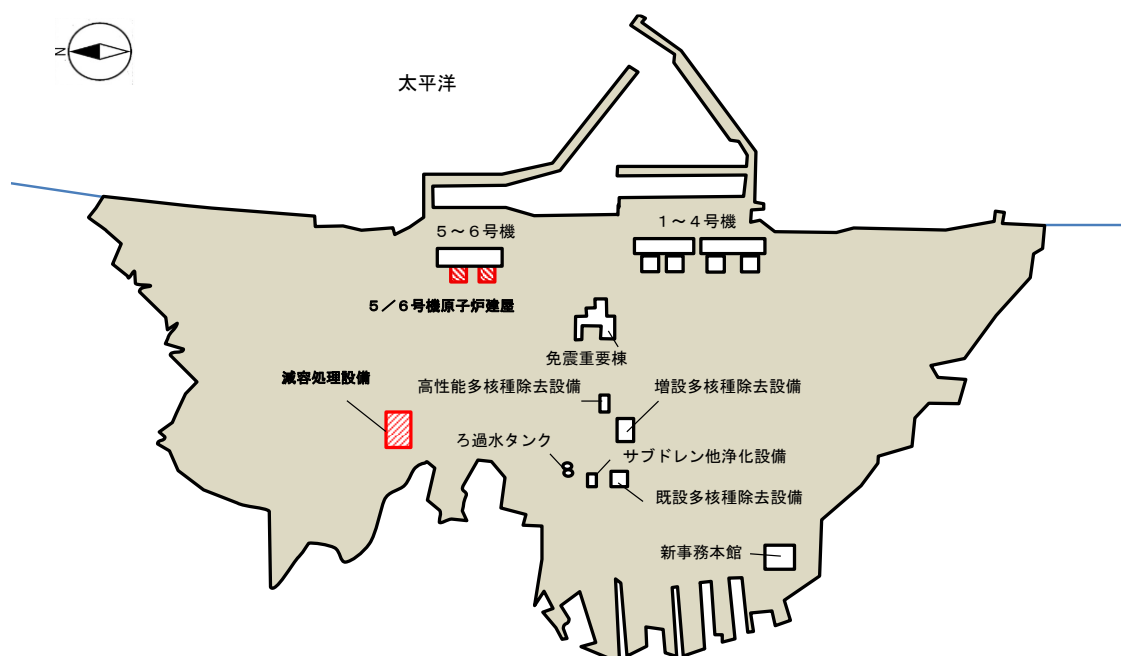
(2) 減容処理設備の稼働状況

東京電力は、廃炉作業で発生する固体廃棄物のうち比較的放射線量の低い瓦礫等（コンクリートや金属くず等）を可能な限り減容するため、令和6年2月から減容処理設備において切断、破碎等の処理を行っている。

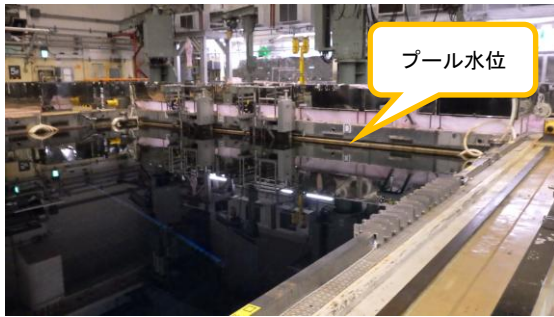
今回は、減容処理設備の稼働状況等を確認した。（前回確認：令和8年6月12日）

- ・減容処理設備は、主に金属を切断するための金属廃棄物減容室、コンクリート破碎を行うコンクリート減容室、大型金属処理室等で構成されている。
- ・金属廃棄物減容室には、ギロチンシャー*³が設置され、現場確認時は、作業が行われていなかったが、受け入れピット内には金属廃棄物が一時的に保管されていた。（写真5）
- ・金属廃棄物減容室及びコンクリート減容室の瓦礫類を取り扱う重機については、確認した範囲では油漏れ等の異常は認められなかった。

※3 金属廃棄物を油圧の力で押し込み、上から分厚い頑丈な刃を下ろして一定のサイズに切断する大型のせん断機械



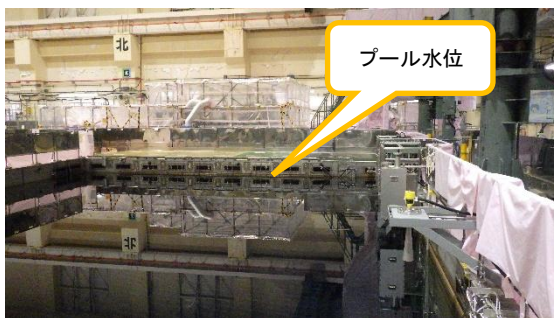
(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真 1) 5号機使用済燃料プールの状況



(写真 2) 5号機新燃料貯蔵庫の状況



(写真 3) 6号機使用済燃料プールの状況



(写真 4) 6号機新燃料貯蔵庫の状況



(写真 5 ①) 減容処理設備の金属減容処理室の様子



(写真 5 ②) 受入ピット内の金属廃棄物の状況



(写真 5 ③) ギロチンシャーの設置状況

5 プラント関連パラメータ等確認

確認したデータについて、異常値は確認されなかった。